



欄に数値またはコメントを記入

<b>1. 建物概要</b>	
建物名称 (仮称)アドン株式会社 新工場新築工事	BEE 1 BEEランク B+ ★★

2. 重点項目への取組み度			
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.3 /5		ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0 /5		ふつつ
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.5 /5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.1 /5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>		得点	<b>3.3</b>	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) 特になし</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦断熱性の高い材の採用と高効率設備の導入により、環境負荷低減に配慮した</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑭建物の節水性に配慮している ⑮ノンフロン断熱材を使用し、汚染物質含有材料の使用回避を行った</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑯消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮している</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 屋光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 屋光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善			
	<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>		得点	<b>3.0</b>
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特になし</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備		
		<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>		得点
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲・⑳ゆとりのある階高と空間の自由さを確保し、設備やプランニングの自由度が極めて高い</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 特になし</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上			
	<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>		得点	<b>2.1</b>
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑵生物環境の保全と創出/⑶まちなみ・景観への配慮/④敷地内温熱環境の向上) 特になし</p> <p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑬温熱環境悪化の改善) 特になし</p>	Q-3 1 ⑵ 生物環境の保全と創出 2 ⑶ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ④ 敷地内温熱環境の向上 LR-2 2 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 LR-3 2 2.2 ⑬ 温熱環境悪化の改善			

# CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)アドン株式会社 新工場新築	階数	地上2F
建設地	静岡県静岡市清水区駒越北町1-10	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	1,500 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年6月 予定	評価の実施日	2023年5月15日
敷地面積	9,392 m <sup>2</sup>	作成者	古市 正彦
建築面積	5,741 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	11,176 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健) 2.0  
4(教育) 2.0  
5(ジェンダー) 2.3  
6(水・衛生) 1.9  
7(エネルギー) 1.9  
8(経済・雇用) 2.1  
9(イノベーション) 1.8  
11(都市) 1.7  
12(生産・消費) 2.2  
13(気候変動) 1.9  
15(陸上資源) 1.1  
17(実施手段) 2.2

\* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.4

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.5

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.5

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> これはCASBEE静岡(2021年版)による評価です。 高い外皮性能を確保し、省エネルギーで快適な室内環境を整えるよう努めた		<b>その他</b> 特になし
<b>Q1 室内環境</b> 高い昼光率の確保し、光・視環境に配慮した 高い自然換気性能を確保することで、健全な空気環境づくりを努めた	<b>Q2 サービス性能</b> 天井高さを十分に確保し、広さ感に配慮している ゆとりのある階高と空間の自由度を確保し、設備やプランニングの自由度が極めて高い	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 特になし
<b>LR1 エネルギー</b> 断熱性の高い材の採用と高効率設備の導入により、環境負荷低減に配慮した	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 建物の節水性に配慮している ノンフロン断熱材を使用し、汚染物質含有材料の使用回避を行った	<b>LR3 敷地外環境</b> 消費エネルギー量削減により運用時のLCCO <sub>2</sub> 排出量低減に配慮している 光害対策に十分に配慮した計画

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される